



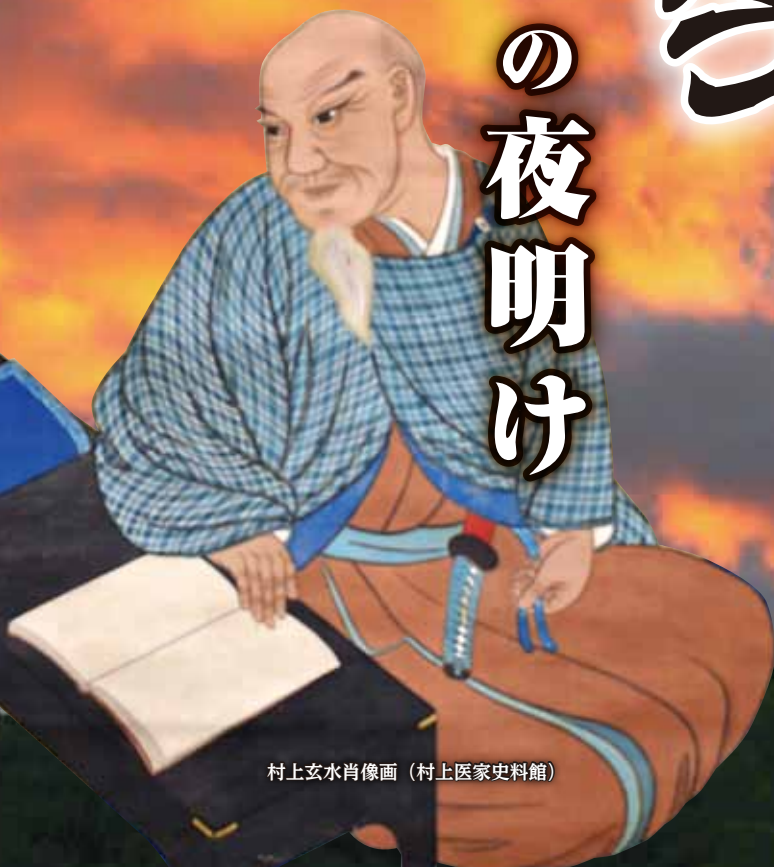
津山洋学資料館  
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

令和6年度 津山洋学資料館 秋季企画展  
蘭学・洋学三津同盟 中津 × 津山

中津藩と

# 蘭学

の夜明け



村上玄水肖像画 (村上医家史料館)



前野良沢肖像画 (個人蔵)

2024年  
9/28 (土) ▶ 11/4 (月・祝)

開館時間：9:00 ~ 17:00 (入館は16:30まで)

休館日：9/30(月)、10/7(月)・15(火)・16(水)・21(月)・28(月) ※会期中

入館料：一般 300円 (240円) / 高校・大学・65歳以上 200円 (160円)

※( )は30名様以上の団体料金

※障がい者手帳をお持ちの方と介護者1名は無料

会場：津山洋学資料館 企画展示室  
岡山県津山市西新町5番地



# 中津藩と

# 蘭学

## の夜明け

「蘭学」とは、日本の学問である「国学」に対して使われる言葉で、いわゆる鎖国時代に唯一、ヨーロッパの国で交易を許されていた、オランダ(和蘭)の学問を意味します。

この「蘭学」の夜明けとなったできごとが、明和八(一七七二)年から始まった杉田玄白らによる『ターヘル・アナトミア』の翻訳事業です。翻訳版は安永三(一七七四)年に『解体新書』として出版され、「蘭学」を広めるとともに、「医学」の飛躍的な発展をもたらしました。この事業には、中津藩医の前野良沢も関わり、教科書でもその名前を見ることが出来ます。では、この大事業が江戸の中津藩邸で始まったことはご存知でしょうか？

この企画展は、令和三年に締結した「蘭学・洋学三津同盟」事業の一環として、今年、出版から二五〇年を迎える、『解体新書』を改めて見つめ直すとともに、「蘭学胎動の地」ともいえる中津藩の「蘭学」に注目します。

### 「蘭学」 始まりの1冊



『解体新書』  
(仁木家資料)



杉田玄白  
(『蘭学事始』より)



『解臓文』(彩色)  
(慶應義塾大学信濃町メディアセンター  
北里記念医学図書館)



『解臓文』(下書き)  
(村上医家史料館)



『蘭学階梯』  
(仁木家資料)



『蘭語訳撰』  
(中津市歴史博物館)

殿様の蘭学研究!?



第3代藩主 奥平昌高  
(中津市歴史博物館)



呈宇田川榛齋先生書  
(村上医家史料館)



蘭学者の交流

宇田川玄真(榛齋)  
(武田科学振興財団杏雨書屋)

中津×津山

### 蘭学・洋学三津同盟

「津」という字を地名にもち、江戸後期から明治初期にかけて、優れた蘭学者・洋学者を輩出した、津山市・中津市(大分県)・津和野町(島根県)の3つの自治体で令和3(2021)年に締結しました。

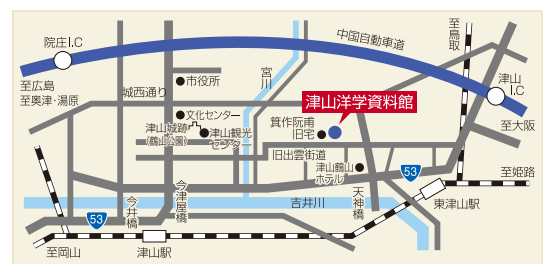


津山洋学資料館  
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

〒708-0833  
岡山県津山市西新町5  
TEL:0868-23-3324

### 交通のご案内

- ◆バス JR 津山線津山駅より東循環ごんごバス南廻り線で12分、西新町バス停下車徒歩2分
- ◆お車 中国自動車道 津山ICから15分/院庄ICから20分



▼HPはこちら